

## 大学・学部別，高等学校までのキャリア教育と大学生のキャリア意識の形成について

－N私立大学理工学部，Y国立大学理工学部・教育学部系の比較検討－

### Formation of Career Awareness of University Students Based upon Career Education Implemented up until High School

－ Comparison and discussion by means of a survey of engineering students from a private university and students of both engineering and education departments at a national university corporation －

中村 豊久\*      森本 信也\*\*      木村 隆文\*\*\*      渡部 憲治郎\*\*\*      佐藤 弘幸\*\*\*\*

Toyohisa NAKAMURA    Shinya MORIMOYO    Takafumi KIMURA    Kenjirou WATABE    Hiroyuki SATO

- \* 静岡大学工学部講師      Faculty of Engineering, Shizuoka University
- \*\* 横浜国立大学教育人間科学部教授      Faculty of Education and Human Science,  
YOKOHAMA National University
- \*\*\* 横浜国立大学理工学部講師      School of Engineering Science, YOKOHAMA National  
University
- \*\*\*\* 元成蹊大学講師      Faculty of Science and Technology, Seikei University

### 要 旨

離職・転職やフリーターについては，①企業の採用，②学校教育，③本人および家庭，に問題があると言われている。今回は，Y国立大学理工学部と教育学部系を対象に調査した。結果は，Y大学の理工学部と教育学部系さらに前回のN大理工学部について比較検討した。

その結果，Y大理工学部では大学で学習した内容が関連する職業に就きたいと希望する者は，次のようは学生であった。①高校でキャリア教育を受けた者 ②大学入学決定時に職業生活を意識した者 ③大学の成績が比較的良い者であった。一方，教育学部系ではこの傾向はある程度見られたが，理工学部ほど明確ではなかった。

大学の成績（自己評価）と希望する職業知識の程度で相関係数を調べた。その結果，理工学部が0.2以上に対し，教育学部系は0.2以下であった。

キーワード： 進路指導，フリーター，キャリア意識の形成，相関係数

## 開発途上国における技術指導の在り方

The Ideal Method of Technical Assistance in Developing Countries

堀 桂太郎\*

Keitaro HORI

\* 明石工業高等専門学校 電気情報工学科

Akashi National College of Technology, Department of Electrical and Computer Engineering

### 要 旨

国際化教育の重要性が認識されるなか、工業教育の現場では学生の海外派遣研修や留学生の受け入れなどの国際交流が積極的に進められている。また、将来は海外で働きたいとの目標をもつ工業系の学生も増えている。一方で、高校や高専などの教員が技術指導のため開発途上国に派遣される事例が増えており、今後も派遣の機会は増していくと考えられる。しかしながら、開発途上国には、先進諸国とは大きく異なる特有の問題点も多い。特に、日本とは異なる考え方を持つ人たちに対する技術指導は、指導者側が発想の転換をしなければならない場面も少なくない。このため、技術指導を成功させるためには、派遣前の準備や現地での活動姿勢や意識のあり方などが極めて重要な課題となる。本論では、筆者が JICA の技術専門家として派遣された経験を元に、開発途上国における技術指導実践に関する概要や留意点などについて考察し報告する。

キーワード： 開発途上国, 技術指導, 国際交流, 政府開発援助, 国際協力機構